

日本を代表する科学アカデミーとして国際学術交流を推進

Gサイエンス学術会議

Gサイエンス学術会議は、G7/G8サミット参加各国の科学アカデミーが、サミット参加各国の指導者に向けて政策提言を行うことを目的とする、平成17年に発足した科学アカデミー会合です。

政策提言は、各国アカデミー間の調整を経てサミットに向けた共同声明の形で各国指導者に提出されます。日本においても、例年、日本学術会議会長から内閣総理大臣に手交しています。平成30年はサミット開催国であるカナダで取りまとめられる予定です。

国際学術団体への加盟・貢献

日本学術会議は、国際学術会議 (International Science Council: ISC*)、インターアカデミーパートナーシップ (InterAcademy Partnership: IAP) 等、主要な国際学術団体に日本の代表機関として加盟しています。

また、これらの国際学術団体が開催する国際会議等に日本学術会議の代表を派遣することにより、世界の学会との連携を深め、学術に関する国際的な研究の連絡を促進し、学術の発展に貢献しています。

※国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 及び国際社会科学評議会 (International Social Science Council: ISSC) の統合により、平成30年7月発足。

アジア学術会議 (SCA)



アジア学術会議 (Science Council of Asia: SCA) は、アジア諸国間の科学の現状に関する情報交換、アジア地域における幅広い科学分野の協力の促進、アジアの科学者間の相互理解と信頼の深化を目的に、日本学術会議の提唱により平成12年に設立され、その事務局は日本学術会議に置かれています。



- 構成：アジア18か国・地域の31の学術機関
- 事務局：日本学術会議
- 平成12年の設立以来、毎年、加盟各国が巡回で国際シンポジウムや総会・理事会等を開催。
(平成30年は日本・東京で開催予定)

第17回アジア学術会議 (SCA) フィリピン会合

フューチャー・アース (Future Earth) の国際的展開



フューチャー・アースは、国際学術会議 (ISC) などが推進する、持続可能な地球社会の実現をめざす国際協働研究イニシアティブです。「人類が持続可能で公平な地球社会で繁栄する」というビジョンのもと2012年「国連持続可能な開発会議」(Rio+20) で提唱され、研究コミュニティと社会の様々なステークホルダーとの連携を推進し、世界をリードする研究所や専門家を開かれたネットワークでつなぎ、より革新的な研究を目指す枠組みです。

日本学術会議は、ガバニング・カウンシルのメンバーであり、カナダ、フランス、スウェーデン、米国とともに、分散型連携事務局連合を形成し、フューチャー・アースの国際的展開の一翼を担っています。

国際会議・シンポジウムの開催

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

日本学術会議では、平成15年以降、地球規模の課題解決のための国際シンポジウム、「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催し、提言等を取りまとめています。



持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2017—災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラム2017—

共同主催国際会議

日本学術会議では、国内で開催される学術研究団体が主催する国際会議のうち、科学的諸問題等の解決に資する重要な会議について、閣議口頭了解を得て共同主催を行い、学術研究の発展や研究者間の交流促進等に貢献しています。

これらの国際会議のうちいくつかの会議には、皇室の御臨席を賜っています。



平成29年10月に開催された「第18回世界肺癌学会」でお言葉を述べられる皇太子殿下と主催者挨拶をする山極会長

今後の共同主催国際会議

開催期間	国際会議名	開催地
平成30年 7月 1日(日) ~ 6日(金)	第18回国際薬理学・臨床薬理学会議	京都
平成30年 7月 22日(日) ~ 27日(金)	第27回液晶国際会議	京都
平成30年 7月 22日(日) ~ 28日(土)	比較法国際アカデミー第20回国際会議	福岡
平成30年 7月 30日(月) ~ 8月 4日(土)	第43回錯体化学国際会議	仙台
平成30年 7月 31日(火) ~ 8月 5日(日)	2018年電磁波工学研究の進歩に関する国際会議	富山
平成30年 8月 19日(日) ~ 25日(土)	国際生産工学アカデミー第68回総会	東京
平成30年 9月 25日(火) ~ 28日(金)	第4回世界社会科学フォーラム	福岡
平成30年10月 7日(日) ~ 10日(水)	2018年IEEEシステム・マン・サイバネティクス国際会議	宮崎

日本学術会議の活動実績

日本学術会議は発足以来、政府に対する勧告・回答、科学技術に関する意見の公表などを数多く行い、成果を上げています。

主な意思の表出		
● 勧告 ◎要望 ○声明 ■提言 □報告 ▲答申 △回答 ◆ 対外報告（平成20年5月より「提言」及び「報告」となった） ◇見解（※過去に使用していた意思表出）		
年 月	主な活動	
昭和24年	○	「日本学術会議の発足にあたって科学者としての決意表明」を採択（第1回総会）
昭和29年	○	「原子力の研究と利用に関し公開、民主、自主の原則を要求する声明」
昭和30年	◎	「国際地球観測年における南極地域観測への参加について」 →南極地域観測事業の開始（昭和46年）
昭和34年	●	「公文書散逸防止について」 →「国立公文書館」設立（昭和46年）
昭和36年	◇	「科学の国際協力についての日本学術会議の見解」
昭和63年	◇	「我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解」
平成 6年	◆	「死と医療特別委員会報告－尊厳死について－」
平成 9年	● ◆	「計算機科学研究の推進について」 →文部省（現 文部科学省）に国立情報学研究所創設（平成12年） 「阪神・淡路大震災調査特別委員会報告」
平成14年	◆	「日本の計画（Japan Perspective）」
平成17年	● ○	「大都市における地震災害時の安全の確保について」 →「地震危険度マップ」の整備、「下水道地震対策緊急整備計画」の策定等（平成18年） 「日本の科学技術政策の要諦」
平成18年	○	「科学者の行動規範について」
平成19年	◆	「科学者コミュニティが描く未来の社会」
平成20年	△ ○ ◆	「生殖補助医療をめぐる諸問題に関する審議の依頼について」 「日本学術会議憲章」 「代理懐胎を中心とする生殖補助医療の課題－社会的に合意に向けて－」
平成21年	◎	「宇宙科学推進に関する要望」→宇宙基本計画に趣旨が反映
平成22年	△ ● ■	「大学教育の分野別質保証の在り方について」 「総合的な科学・技術政策の確立による科学・技術研究の持続的振興に向けて」 「日本の展望－学術からの提言2010」
平成23年	△ ■	「河川流出モデル・基本高水の検証に関する学術的な評価」 「東日本大震災被災地域の復興に向けて－復興の目標と7つの原則－」
平成24年	△ △	「高レベル放射性廃棄物の処分について」 「アジアの大都市制度と経済成長に関する検証及び日本への示唆」
平成25年	△	「国際リニアコライダー計画に関する所見」
平成27年	△	「科学研究における健全性の向上について」
平成29年	○	「軍事的安全保障研究に関する声明」

日本学術会議の沿革

年 月	主な出来事
昭和23年 7月	日本学術会議法公布
12月	日本学術会議法に基づく第1回選挙施行、12月20日に当選人確定 ※会員選出方法は公選制
昭和24年 1月	内閣総理大臣の所轄の下に日本学術会議設立（第1回総会） ※これにより、旧学術三団体のうち、学術研究会議は廃止、日本学士院は日本学術会議に含まれる荣誉機関となる
昭和31年 4月	日本学士院が文部省に移管され、日本学術会議から独立
昭和45年 7月	現庁舎に移転 ※それまでは日本学士院の庁舎を使用
昭和59年 5月	日本学術会議法の一部を改正する法律施行 ※会員選出方法について、協会を基盤とする推薦制へ変更
平成13年 1月	中央省庁等改革基本法施行に伴い、総務大臣の所轄へ
平成17年 4月	日本学術会議法の一部を改正する法律の一部施行に伴い、再び内閣総理大臣の所轄へ
10月	日本学術会議法の一部を改正する法律施行 ※会員選出方法を、日本学術会議が選考し内閣総理大臣に推薦する方法へ変更 ※7部制から3部制へ改組、連携会員の新設等

歴代会長・副会長一覧

期（年月）	会 長	副会長		備 考	
		人文・社会科学部門	自然科学部門		
第 1 期（昭24.1～昭26.1）	亀山 直人	我妻 榮	仁科 芳雄		
第 2 期（昭26.1～昭29.1）	亀山 直人	我妻 榮	茅 誠司		
第 3 期（昭29.1～昭32.1）	茅 誠司	尾高 朝雄 横田 喜三郎	兼重 寛九郎	昭31.10就任	
第 4 期（昭32.1～昭35.1）	茅 誠司 兼重 寛九郎	中山 伊知郎	兼重 寛九郎 和達 清夫	昭33.4就任	
第 5 期（昭35.1～昭38.1）	和達 清夫	桑原 武夫	山県 昌男		
第 6 期（昭38.1～昭41.1）	朝永 振一郎	桑原 武夫	吉田 富三		
第 7 期（昭41.1～昭44.1）	朝永 振一郎	桑原 武夫	江上 不二夫		
第 8 期（昭44.1～昭47.1）	江上 不二夫	桑原 武夫	吉識 雅夫		
第 9 期（昭47.1～昭50.1）	越智 勇一	野村 平爾	伏見 康治		
第10期（昭50.1～昭53.1）	越智 勇一	高橋 幸八郎	伏見 康治		
第11期（昭53.1～昭56.1）	伏見 康治	岡倉 古志郎	名取 禮二		
第12期（昭56.1～昭60.7）	伏見 康治 久保 亮五 塚田 裕三	岡倉 古志郎 安藤 良雄 渡辺 洋三	塚田 裕三 八十島 義之助 藤巻 正生	昭57.10就任 昭58.5就任	
第13期（昭60.7～昭63.7）	近藤 次郎	中川 秀恭	八木 國夫		
第14期（昭63.7～平 3.7）	近藤 次郎	大石 泰彦	渡辺 格		
第15期（平 3.7～平 6.7）	近藤 次郎	川田 侃	渡辺 格		
第16期（平 6.7～平 9.7）	伊藤 正男	利谷 信義	西島 安則		
第17期（平 9.7～平12.7）	吉川 弘之	柏崎 利之輔	佐々木 恵彦		
第18期（平12.7～平15.7）	吉川 弘之	吉田 民人	黒川 清		
第19期（平15.7～平17.9）	黒川 清	戒能 通厚	岸 輝雄		
期（年月）	会 長	副会長			備 考
		組織運営等	政府・社会との関係等	国際活動	
第20期（平17.10～平20.9）	黒川 清 金澤 一郎	浅島 誠	大垣 眞一郎 鈴木 興太郎	石倉 洋子 土居 範久	平18.10就任
第21期（平20.10～平23.9）	金澤 一郎 廣渡 清吾	大垣 眞一郎	鈴木 興太郎 廣渡 清吾 秋山 弘子	唐木 英明	平23.4就任 平23.7就任
第22期（平23.10～平26.9）	大西 隆	武市 正人 小林 良彰	小林 良彰 家 泰弘	春日 文子	平25.4就任
第23期（平26.10～平29.9）	大西 隆	向井 千秋	井野瀬久美恵	花木 啓祐	
第24期（平29.10～）	山極 壽一	三成 美保	渡辺 美代子	武内 和彦	

科学は人類が共有する学術的な知識と技術の体系であり、科学者の研究活動はこの知的資産の外延的な拡張と内包的な充実・深化に関わっている。この活動を担う科学者は、人類遺産である公共的な知的資産を継承して、その基礎の上に新たな知識の発見や技術の開発によって公共の福祉の増進に寄与するとともに、地球環境と人類社会の調和ある平和的な発展に貢献することを、社会から負託されている存在である。日本学術会議は、日本の科学者コミュニティの代表機関としての法制上の位置付けを受け止め、責任ある研究活動と教育・普及活動の推進に貢献してこの負託に応えるために、以下の義務と責任を自律的に遵守する。

第1項 日本学術会議は、日本の科学者コミュニティを代表する機関として、科学に関する重要事項を審議して実現を図ること、科学に関する研究の拡充と連携を推進して一層の発展を図ることを基本的な任務とする組織であり、この地位と任務に相応しく行動する。

第2項 日本学術会議は、任務の遂行にあたり、人文・社会科学と自然科学の全分野を包摂する組織構造を活用して、普遍的な観点と俯瞰的かつ複眼的な視野の重要性を深く認識して行動する。

第3項 日本学術会議は、科学に基礎づけられた情報と見識ある勧告および見解を、慎重な審議過程を経て対外的に発信して、公共政策と社会制度の在り方に関する社会の選択に寄与する。

第4項 日本学術会議は、市民の豊かな科学的素養と文化的感性の熟成に寄与するとともに、科学の最先端を開拓するための研究活動の促進と、蓄積された成果の利用と普及を任務とし、それを継承する次世代の研究者の育成および女性研究者の参画を促進する。

第5項 日本学術会議は、内外の学協会と主体的に連携して、科学の創造的な発展を目指す国内的・国際的な協同作業の拡大と深化に貢献する。

第6項 日本学術会議は、各国の現在世代を衡平に処遇する観点のみならず、現在世代と将来世代を衡平に処遇する観点をも重視して、人類社会の共有資産としての科学の創造と推進に貢献する。

第7項 日本学術会議は、日本の科学者コミュニティの代表機関として持続的に活動する資格を確保するために、会員及び連携会員の選出に際しては、見識ある行動をとる義務と責任を自発的に受け入れて実行する。

日本学術会議のこのような誓約を受けて、会員及び連携会員はこれらの義務と責任の遵守を社会に対して公約する。

(以上)

部 長 大野 英男
副部長 徳田 英幸
幹 事 高橋 桂子
幹 事 米田 雅子



会 長
山極 壽一



副会長
三成 美保
担当(組織運営等)



副会長
渡辺 美代子
担当(政府・社会との関係等)



副会長
武内 和彦
担当(国際活動)

第一部 人文・社会科学



部 長 佐藤 岩夫
副部長 藤原 聖子
幹 事 橋本 伸也
幹 事 町村 敬志

井伊 雅子 (経済学)
池尾 和人 (経済学)
石川 義孝 (地域研究、環境学)
伊藤 公雄 (社会学)
岩崎 晋也 (社会学)
遠藤 薫 (社会学)
遠藤 利彦 (心理学・教育学)
大竹 文雄 (経済学)
大野 由夏 (経済学)
大山 耕輔 (政治学)
岡崎 哲二 (経済学)
岡田 真美子〔真水〕 (哲学、環境学)
小佐野 重利 (史学)
亀本 達也 (心理学・教育学)
亀本 洋 (法学)
苅部 直 (政治学)
河田 潤一 (政治学)
上林 憲雄 (経営学)

北村 行伸 (経済学)
木部 暢子 (言語・文学)
行場 次朗 (心理学・教育学)
窪田 幸子 (地域研究)
栗田 禎子 (史学、地域研究)
久留島 典子 (史学)
黒崎 卓 (経済学、地域研究)
古城 佳子 (政治学)
小玉 重夫 (心理学・教育学、政治学)
小林 傳司 (哲学)
西條 辰義 (経済学、環境学)
佐藤 岩夫 (法学)
佐藤 嘉倫 (社会学)
佐野 正博 (史学、経営学)
志水 宏吉 (心理学・教育学、社会学)
白藤 博行 (法学)
高倉 浩樹 (地域研究)
高村 ゆかり (法学、環境学)

高山 佳奈子 (法学)
恒吉 僚子 (心理学・教育学)
土井 政和 (法学)
徳賀 芳弘 (経営学)
戸田山 和久 (哲学、情報学)
永瀬 伸子 (経済学)
中谷 和弘 (法学)
西尾 テツル (経営学)
西川 伸一 (政治学)
西崎 文子 (地域研究、政治学)
西田 眞也 (心理学・教育学、情報学)
糠塚 康江 (法学)
野澤 正充 (法学)
橋本 伸也 (史学、地域研究)
廣瀬 真理子 (法学)
福永 伸哉 (史学)
藤原 聖子 (哲学)
本田 由紀 (社会学、心理学・教育学)

眞柄 秀子 (政治学)
町村 敬志 (社会学)
松井 三枝 (心理学・教育学、臨床医学)
松浦 純 (言語・文学)
松下 佳代 (心理学・教育学)
松原 宏 (地域研究、地球惑星科学)
松本 恒雄 (法学)
三木 浩一 (法学)
水野 紀子 (法学)
溝端 佐登史 (経済学、地域研究)
三成 美保 (法学、史学)
宮崎 恒二 (地域研究、統合生物学)
吉田 和彦 (言語・文学)
若尾 政希 (史学)
和田 肇 (法学)
渡部 泰明 (言語・文学)

第二部 生命科学



部 長 石川 冬木
副部長 平井 みどり
幹 事 武田 洋幸
幹 事 丹下 健

秋葉 澄伯 (健康・生活科学、環境学)
東 みゆき (基礎医学、歯学)
天谷 雅行 (臨床医学)
池田 素子 (農学)
伊佐 正 (基礎医学)
石川 冬木 (基礎生物学、基礎医学)
石塚 真由美 (食料科学、環境学)
磯部 光章 (臨床医学)
市川 哲雄 (歯学)
今井 由美子 (基礎医学)
巖佐 庸 (統合生物学、基礎生物学)
遠藤 玉夫 (基礎医学、薬学)
大杉 立 (農学、食料科学)
岡部 繁男 (基礎医学)
小川 宣子 (健康・生活科学)
小田切 徳美 (農学)
越智 光夫 (臨床医学)
甲斐 知恵子 (基礎医学、食料科学)

高木 利久 (統合生物学、情報学)
多久和 典子 (基礎医学、健康・生活科学)
武内 和彦 (環境学)
武田 洋幸 (基礎生物学)
丹下 健 (農学、環境学)
丹沢 秀樹 (歯学)
戸田 達史 (臨床医学、基礎医学)
永井 良三 (臨床医学)
名越 澄子 (臨床医学)
南條 正巳 (農学、環境学)
仁科 弘重 (農学、食料科学)
西村 いくこ (基礎生物学)
西村 理行 (歯学)
平井 みどり (薬学)
古谷 研 (食料科学、環境学)
別役 智子 (臨床医学)
寶金 清博 (臨床医学、基礎医学)
松田 道行 (基礎医学、基礎生物学)

松本 宏 (農学)
眞鍋 昇 (食料科学、農学)
水口 雅 (臨床医学、基礎医学)
光富 徹哉 (臨床医学、基礎医学)
三村 徹郎 (基礎生物学、統合生物学)
宮崎 康二 (臨床医学)
宮地 元彦 (健康・生活科学)
向井 千秋 (総合工学、臨床医学)
村川 康子 (臨床医学)
望月 眞弓 (薬学)
森 正樹 (臨床医学)
安村 誠司 (健康・生活科学、臨床医学)
山極 壽一 (統合生物学、地域研究)
山脇 成人 (臨床医学)
吉岡 充弘 (基礎医学)

第三部 理学・工学



部 長 大野 英男
副部長 徳田 英幸
幹 事 高橋 桂子
幹 事 米田 雅子

相澤 彰子 (情報学)
相澤 清晴 (情報学)
相田 美砂子 (化学)
浅間 一 (機械工学、総合工学)
浅見 真理 (環境学、健康・生活科学)
阿尻 雅文 (化学、環境学)
荒川 薫 (情報学、電気電子工学)
磯部 雅彦 (土木工学・建築学、環境学)
乾 晴行 (材料工学)
大倉 典子 (総合工学、情報学)
大島 まり (機械工学)
大西 公平 (電気電子工学)
大野 英男 (総合工学、電気電子工学)
小澤 徹 (数理学)
梶田 隆章 (物理学)
片岡 一則 (材料工学、化学)
加藤 昌子 (化学)
金子 真 (機械工学、電気電子工学)

川村 光 (物理学、地球惑星科学)
君塚 信夫 (化学)
木村 学 (地球惑星科学)
厨川 常元 (機械工学)
小池 俊雄 (土木工学・建築学、地球惑星科学)
小谷 元子 (数理学)
五神 真 (物理学、総合工学)
小林 潔司 (土木工学・建築学)
小山田 耕二 (総合工学、情報学)
柴山 悦哉 (情報学)
菅原 洋子 (化学)
鈴置 保雄 (総合工学)
関根 干津 (化学)
高橋 桂子 (地球惑星科学、環境学)
但野 茂 (機械工学)
田近 英一 (地球惑星科学)
田辺 新一 (土木工学・建築学、環境学)
谷口 倫一郎 (情報学)

田村 裕和 (物理学)
筑本 知子 (総合工学、材料工学)
茶谷 直人 (化学)
坪井 俊 (数理学)
徳田 英幸 (情報学)
徳山 豪 (情報学)
所 干晴 (総合工学、化学)
中野 義昭 (電気電子工学、総合工学)
中村 栄一 (化学)
中村 崇 (材料工学、総合工学)
中村 尚 (地球惑星科学、環境学)
野尻 美保子 (物理学)
萩田 紀博 (情報学)
橋本 和仁 (化学、材料工学)
波多野 睦子 (電気電子工学、総合工学)
春山 成子 (地球惑星科学、環境学)
東野 輝夫 (情報学)
菱田 公一 (機械工学)

福山 満由美 (機械工学)
藤井 孝蔵 (機械工学、総合工学)
藤井 良一 (地球惑星科学)
前川 宏一 (土木工学・建築学)
松尾 由賀利 (物理学、総合工学)
松宮 徹 (材料工学)
美濃 導彦 (情報学)
宮地 充子 (情報学、電気電子工学)
山口 周 (材料工学)
山崎 典子 (物理学)
山本 里枝子 (情報学)
吉田 進 (電気電子工学、情報学)
吉村 忍 (総合工学、機械工学)
米田 雅子 (土木工学・建築学)
渡辺 美代子 (総合工学、電気電子工学)
渡辺 芳人 (化学)

(平成30年3月1日現在)



日本学術会議 Science Council of Japan

日本学術会議事務局 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

☎03-3403-3793 (代表)

アクセス 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口から徒歩1分



▶日本学術会議の最新の情報、様々な活動については、ホームページや広報誌等を通じてお知らせしています。

日本学術会議ホームページ <http://www.scj.go.jp>

月刊学術広報誌『学術の動向』 <http://jssf86.org/works1.html>

平成30年3月 編集・発行／日本学術会議

